

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	基礎助産学 I J 22001	前期	講義	1	
担当教員	西村 理恵				
授業の概要	助産の歴史の変遷および母子保健の推移を学び、助産師の定義、役割および法的責務を理解する。あわせて助産における基本的概念と倫理、助産師教育の体系および専門職としての学びの在り方を学び、専門職としての基盤を形成する。				
到達目標	1. 助産および母子保健の歴史の変遷を理解できる 2. 助産師の定義および役割・責務を理解できる 3. 助産師の法的義務を専門用語を用いて説明できる 4. 助産における基本的概念および倫理を理解できる 5. 助産師教育の体系と専門職としての学びのあり方を理解できる				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○	○		
授業計画	1. 助産・助産師の変遷 2. 日本の母子保健の変遷と統計の推移 3. 助産・助産師の定義、助産師の役割・責務 4. 助産師の法的義務と専門職としての責任 5. 助産における基本的概念 6. 助産における倫理 7. 助産師教育（基礎教育・現任教育） 8. まとめ				
事前・事後学習について	事前学習：指定されたテキストを読み、内容の把握に努めること。 事後学習：授業後に提示する事後課題に取り組み、授業内容を振り返ることで、知識の定着を図る。				
準備学習に必要な時間	各回の授業内容を確認し、1時間程度の予習を行うことを奨励する。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	50			
	その他	50			
受講上の注意・課題のフィードバック	受講上の注意点：講義内容は、講義の進行状況により、順番を変更することがある。 課題のフィードバック：希望に応じて個別に提示する。				
使用テキスト	我部山キヨ子編：基礎助産学 [1] 助産学概論第 6 版 医学書院 2022 年				
参考書	工藤美子編：助産概論・母子保健 日本看護協会出版会 2026 年 わが国の母子保健 令和 3 年 母子衛生研究会 2021 年 母子保健の主なる統計 令和 7 年刊行 2025 年				

対象学生	助産学専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	基礎助産学Ⅱ	J 22002	前期	講義・演習	1				
担当教員	西村 理恵								
授業の概要	女性の健康に関する支援の基盤となる、基礎的理解を深めることを目的とする。性と生殖に関する解剖・生理、免疫の基礎、生活環境や嗜好など健康に影響を及ぼす因子、歯科保健および代替補完療法について理解する。								
到達目標	1. 性と生殖に関する解剖・生理の基礎を理解できる 2. 母子における免疫の基礎的な仕組みを理解できる 3. 女性の健康に影響を及ぼす因子の基本を理解できる 4. 母子の歯科保健の重要性と基礎を理解できる 5. 母子に関わる代替補完療法の基礎を理解できる								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1-4. 性と生殖に関する解剖・生理の基礎 5. 母子における免疫 6. 女性の健康に影響を及ぼす因子①環境 7. 女性の健康に影響を及ぼす因子②嗜好品・薬物 8. 女性の健康に影響を及ぼす因子③運動 9. 母子の歯科保健 10-11. 母子に関わる代替補完療法①総論・東洋医学 12-13. 母子に関わる代替補完療法②アロマセラピー 14-15. 母子に関わる代替補完療法③タッチケア								
事前・事後学習について	事前学習：指定されたテキストを読み、内容の把握に努めること。 事後学習：授業後に提示する事後課題に取り組み、授業内容を振り返ることで、知識の定着を図る。								
準備学習に必要な時間	各回の授業内容を確認し、1時間程度の予習を行うことを奨励する。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	50							
	その他	50	事後課題						
受講上の注意・課題のフィードバック	受講上の注意点：講義内容は、講義の進行状況により、順番を変更することがある。 課題のフィードバック：定期試験採点後の内容については、希望に応じて個別に提示する。								
使用テキスト	標準産科婦人科学 第5版 医学書院 2026 助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 第6版 医学書院 助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学 第6版 医学書院								
参考書									

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	基礎助産学Ⅲ J 22003	前期	講義	1	
担当教員	矢崎 明香				
授業の概要	女性の健康に関する支援の基盤となる、基礎的知識の理解を目的とする。 出生前診断、生殖医療、感染症、女性のライフサイクル各期の疾患およびリプロダクティブ・ヘルスに関する理解を深める。				
到達目標	1. 出生前診断と遺伝医療の基礎的知識を理解し説明できる 2. 不妊症・不育症および生殖補助医療の基礎を理解できる 3. 母子感染および婦人科感染症の基礎を理解できる 4. 女性のライフサイクル各期に生じる主な疾患を理解できる 5. 女性生殖器および乳房疾患の基礎を理解できる				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	1-2. 出生前診断と周産期の遺伝医療と遺伝カウンセリング 3-4. 不妊症・不育症および生殖補助医療 5-6. 母子感染 7-8. 婦人科感染症 9-10. 女性のライフサイクル各期に生じる主な疾患①思春期・成熟期 11-12. 女性のライフサイクル各期に生じる主な疾患②更年期・老年期 13-14. 女性生殖器および乳房疾患 15. まとめ				
事前・事後学習について	事前学習：指定されたテキストを読み、内容の把握に努めること。 事後学習：テキストおよび配布資料を読み返し、授業の内容の理解を深めること。				
準備学習に必要な時間	各回の授業内容を確認し、1時間程度の予習を行うことを奨励する。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	100	講義内容の理解度		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	受講上の注意点：講義内容は、講義の進行状況により、順番を変更することがある。 課題のフィードバック：定期試験採点後の内容については、希望に応じて個別に提示する。				
使用テキスト	助産学講座 2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第 6 版 医学書院 標準産婦人科学 第 5 版 医学書院 2026				
参考書					

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	基礎助産学Ⅳ J 22004	前期	講義	1	
担当教員	小池 美千世				
授業の概要	自己理解を出発点として、母性の理解を深め家族支援について学習する。 アタッチメントを視点に乳幼児虐待の発生するメカニズムを学習し、助産師にできる予防策を学ぶ。 乳児院と児童養護施設の見学を行い、現代の児童福祉の実態や被虐待児へのアプローチの方法を学ぶ。				
到達目標	アタッチメントや母性について理解し、孤立しがちな母親の子育ての支援策を考えることができる。 乳幼児虐待の発生するメカニズムを理解し、助産師の立場でできる防止策を理解できる。 乳児院と児童養護施設の見学を行い、現代の児童福祉の実態や被虐待児へのアプローチの方法を考えることができる。				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人格理論から自己理解について考える</li> <li>2. 自我と人格形成について</li> <li>3. 自我はどのように育つのか</li> <li>4. 自我と親子関係について考える</li> <li>5. 甘え理論からみる愛着形成</li> <li>6. 承認欲求と母性について</li> <li>7. 主体性と認知について</li> <li>8. 親子関係・夫婦関係について</li> <li>9. アイデンティティについて</li> <li>10. 母性・父性について</li> <li>11. 虐待が起きる社会的要因・メカニズムについて</li> <li>12. 母子家庭・父子家庭、家族の変容、育児不安について考える</li> <li>13. 母親のメンタルヘルスを考える</li> <li>14. 子育て相談からのエピソード(家庭の養育力、家庭崩壊など)</li> <li>15. 視察(児童相談所・乳児院・児童養護施設)</li> </ol>				
事前・事後学習について	母性の理解という点で、自分の考えを持って講義に臨んでください。 エリクソンのライフサイクル論(発達課題)について予習しておいてください。				
準備学習に必要な時間	授業予定に沿って、授業の内容を考えられるようにしておく。(1 時間程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	100	講義内容の理解度		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	授業内容についての質問などに対し答える。				
使用テキスト	必要時提示する。				
参考書					

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	基礎助産学V J 22005	前期	講義	1	
担当教員	伊藤 かおり				
授業の概要	新生児の解剖学・生理学の理解とそれに基づく病理学を学んでいただきます。総論・新生児の生理は講師が行いますが、各論は受講者に担当疾患を割り振り発表していただく形式にします。				
到達目標	新生児の生理的特徴と疾患の病態について系統的に理解し、新生児の理解を深めるとともに新生児の発育の援助と異常の早期発見できるようにする				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	1-2. 新生児の特徴および分類 3-4. 新生児の生理的適応 ①呼吸器系の生理 ②循環器系の生理 ③体温と温度環境 ④水・電解質の生理 ⑤消化器系の生理 ⑥早産児の生理 5-14. 病因、病態から見た新生児の疾患、臓器別にみた新生児の疾患 ①呼吸器系の疾患 ②循環器系の疾患 ③黄疸 ④感染症 ⑤血液系の疾患 ⑥中枢神経系の疾患 ⑦その他の新生児特有の疾患 15. まとめ				
事前・事後学習について	前半は生理学、解剖学、内科学など基礎的な知識を確認してください 後半は新生児の疾患に関して担当を割り振りますので、発表担当者は割り振られた疾患について当日発表できるように準備をしてください				
準備学習に必要な時間	予習に 1 時間程度教科書を読んでおいてください。また、復習に 30 分程度教科書や講義のプリントを読んでください。発表担当者は教科書や参考書等を基に当日発表に必要なスライドや資料を準備してください。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	100	講義内容の理解度、一部助産師国家試験問題から抜粋		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	受講中に現在の理解度を適宜質問し確認します。また、わからない点に関しては適宜解説します。発表内容に関しては適宜補足説明を行います。疑問点、不明な点など積極的に質問し理解していただくことが望まれます。				
使用テキスト	新生児学入門 第 6 版 仁志田博司編 医学書院 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期 第 6 版 医学書院				
参考書	新生児学テキスト 日本新生児成育医学会編 メディカ出版 2018				

対象学生	助産学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	助産診断・技術学Ⅰ J 23006			前期	講義・演習	2			
担当教員	西村 理恵								
授業の概要	妊娠期における助産過程を展開するための基礎を学ぶ。紙上事例を用いて情報を整理・統合・分析し、助産診断および助産計画を立案する。妊婦健診を想定したグループワークおよびシミュレーションを通して、助産実践の基盤を形成する。								
到達目標	1. 妊娠期における助産過程を理解し展開できる 2. 妊婦のフィジカルアセスメントを実践できる 3. 情報を整理・統合・分析し助産診断を導き出せる 4. 妊婦の特性に応じた助産計画を立案できる 5. 妊婦健診および保健指導を実践し評価できる								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1-2. 助産診断・技術学の概要および助産過程（妊娠期事例提示） 3-4. 妊娠期の診断とケア 5-6. 助産過程の展開①（情報整理・統合・分析） 7-8. 助産過程の展開②（助産診断・目標設定） 9-11. 妊婦健診と保健指導①（グループワーク・シミュレーション） 12-13. 妊婦健診と保健指導②（グループワーク・シミュレーション） 14-15. 妊婦健診と保健指導③（グループワーク・シミュレーション）								
事前・事後学習について	事前学習：指定されたテキストを読み、内容の把握に努めること。助産技術については、指定テキストを参考に各自手順書を作成すること。 事後学習：授業内容を振り返り、テキストおよび配布資料を読み返して理解を深めること。								
準備学習に必要な時間	各回の授業内容を確認し、2時間程度の事前・事後学習を奨励する。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	20	シミュレーションの振り返りと課題の明確化シート						
	レポート	80	助産過程の展開、保健指導案						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	事例アセスメントでは段階的に追加情報を提示する。事前に個人ワークを行い、グループワークに臨むこと。 グループワークで生じた修正点は適宜補足し、内容のブラッシュアップを図ること。								
使用テキスト	我部山キヨ子：助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第6版 医学書院 2021年 日本産婦人科学会・日本産婦人科医会監修：産婦人科診療ガイドライン産科編 2023 2023年 中根直子ら：写真でわかる助産技術アドバンス インターメディカ 2025年								
参考書	町浦美智子：助産学実習プレブック 医歯薬出版 2024年 北川真理子ら編：今日の助産 南江堂 2019年								

対象学生	助産学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	助産診断・技術学Ⅱ J 23007			前期	講義・演習	2			
担当教員	西村 理恵								
授業の概要	分娩期における助産過程を展開するための基礎を学ぶ。紙上事例を用いて情報を整理・統合・分析し、助産診断および助産計画を立案する。分娩期を想定したグループワークおよびシミュレーションを通して、助産実践の基盤を形成する。								
到達目標	1. 分娩期における助産過程を理解し展開できる 2. 分娩期のフィジカルアセスメントを実践できる 3. 情報を分析し時期診断および経過予測を導き出せる 4. 母体・胎児の状態に応じた助産計画を立案できる 5. シミュレーションを通して助産実践を評価できる								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1-2. 分娩期の診断と助産ケア①（紙上事例提示） 3-4. 分娩期の診断と助産ケア② 4-5. 分娩期の診断と助産ケア③ 6-7. 助産過程の展開①・産婦の観察および分娩監視装置の装着、産痛緩和ケア 8-9. 助産過程の展開②（グループワーク・シミュレーション） 10-11. 助産過程の展開③（グループワーク・シミュレーション） 12-13. 助産過程の展開④（グループワーク・シミュレーション） 14-15 分娩介助技術（フリースタイル分娩の介助 臨床助産師による実践）								
事前・事後学習について	事前学習：指定されたテキストを読み、内容の把握に努めること。 事後学習：授業内容を振り返り、テキストおよび配布資料を読み返して理解を深めること。								
準備学習に必要な時間	各回の授業内容を確認し、2時間程度の事前・事後学習を奨励する。								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	20	シミュレーションの振り返りと課題の明確化シート						
	レポート	80	助産過程の展開						
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	事例アセスメントでは段階的に追加情報を提示する。事前に個人ワークを行い、グループワークに臨むこと。 グループワークで生じた修正点は適宜補足し、内容のブラッシュアップを図ること。								
使用テキスト	我部山キヨ子ら：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期 第6版 医学書院 2021年 中根直子ら：写真でわかる助産技術アドバンス インターメディカ 2025年 日本産婦人科学会・日本産婦人科医会監修：産婦人科診療ガイドライン産科編 2023 2023年								
参考書	町浦美智子：助産学実習プレブック 医歯薬出版 2024年 北川真理子ら編：今日の助産 南江堂 2018年								

対象学生	助産学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	助産診断・技術学Ⅲ J 23008			前期	講義	2			
担当教員	池田 枝里								
授業の概要	正常な分娩・産褥経過を診断するために必要となる基礎的な知識を学ぶ。 正常からの逸脱を判断するために必要な妊娠期・分娩期・産褥期の異常を学ぶ。								
到達目標	基礎的な知識を理解し、正常な分娩・産褥経過を診断することができる。 正常からの逸脱を判断するために必要な妊娠期・分娩期・産褥期の異常が理解できる。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1-2：妊娠期の異常①（妊娠疾患・妊娠持続期間異常・着床異常・偶発性合併妊娠） 3-4：妊娠期の異常②（胎児性異常妊娠・胎児付属物性異常妊娠・母子感染） 5：分娩の基礎・正常分娩 6：分娩期の異常①（娩出力の異常・産道の異常） 7-8：分娩期の異常と対応②（胎児の異常・胎児に起因する分娩の遷延・胎児付属物の異常） 9-10：分娩期の異常と対応③（軟産道裂傷・弛緩出血・産科ショック） 11：産科手術（帝王切開・吸引分娩・鉗子分娩など） 12：産褥の基礎 13：産褥期の異常（生殖器の異常・感染症・血栓症・精神障害・産褥期後遺症） 14：不妊と不妊治療および生殖医療技術（不妊の定義・原因・治療） 15：まとめ								
事前・事後学習について	講義の後は復習を行ない、理解を深める。								
準備学習に必要な時間	講義予定に沿って、教科書などを1時間程度読み、授業内容を理解しやすくする。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	100	講義内容の理解度						
	実践	0							
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	授業中の質問などにわかりやすく答える。								
使用テキスト	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期 医学書院 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 医学書院 標準産婦人科学 医学書院 CTG テキスト メジカルビュー社								
参考書									

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	助産診断・技術学Ⅳ J 23009	前期	講義・演習	2	
担当教員	中山 美香				
授業の概要	産褥期にある女性の身体・心理・社会的特徴と新生児の生理学的変化の特徴を学び、助産診断と援助の実際を学びます。正常経過にある対象だけでなく、正常からの逸脱の診断と援助を学びます。さらに専門職として知識を深めるために、特別講師による適切な診断・援助のための授業、技術演習も行います。				
到達目標	産褥期にある女性の身体・心理・社会的特徴を理解し、対象に応じた助産診断から援助の展開を理解できる。 出生直後から移行期にある新生児の生理学的変化の特徴を理解し、助産診断から援助の展開を理解できる。 褥婦・新生児の正常からの逸脱の診断・援助を理解できる。 援助を実践するための必要な技術を習得する。				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○			
授業計画	1. 産褥期の生理/助産診断 2. 褥婦への支援①退行性変化促進、産後の生活への支援 3. 褥婦への支援②乳房管理のための診断と支援 4. 新生児期の診断と支援 5. 正常経過から逸脱した褥婦の診断と支援 6. 正常経過から逸脱した新生児の診断と支援 7. 新生児の出生直後と 24 時間以降の観察 【特別講師】(8 回) 8-11. NCPN A コース研修 (飯田市立病院助産師) 12-13. 母乳育児支援の実際 (飯田市立病院助産師) 14-15. 集中ケアを必要とする新生児の看護の基本とその実際 (飯田市立病院看護師)				
事前・事後学習について	専門職に必要な知識を学ぶために、教科書を中心とした予習・復習が必要となります。予習では、事前に講義範囲の教科書を読み、用語を調べておいてください。褥婦に必要な指導を実施するために、事前・事後学習を行ってください。また、事例を通して褥婦と新生児に対する援助の理解を深めますので、積極的に取り組んでください。特別講師による講義やディスカッションを取り入れた授業もあります。主体的に参加し、実践に活かせるよう授業の内容をまとめておいてください。				
準備学習に必要な時間	授業内で提示する課題を予習・復習に活用し 1 時間程度学習に取り組んでください。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	30	演習の取り組み状況		
	レポート	70	産褥期・新生児期における助産過程の理解度		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	レポートに対する添削を行い返却します。				
使用テキスト	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 我部山キヨ子・藤井知行編 医学書院 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 石井邦子・廣間武彦編 医学書院				
参考書	とくに指定しない				

対象学生	助産学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	助産診断・技術学Ⅴ J 23010			前期	講義・演習	2			
担当教員	西村 理恵・塩澤 綾乃								
授業の概要	女性のライフサイクル各期における健康課題を学ぶ。相談および健康教育の基礎を理解し、対象特性に応じた健康教育を企画・実施する。演習を通して健康支援を実践し、助産実践の基盤を形成する。								
到達目標	1. 女性のライフサイクル各期のニーズを把握し、健康課題に応じた支援を実践できる 2. 特定の健康課題に焦点を当てた健康教育を企画・実施できる 3. 健康教育の実践を評価し、改善点を整理できる								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1. 女性のライフサイクル各期の健康課題と支援、プレコンセプションケア 2. 性と生殖に関する解剖と生理、性の分化と発達 3. 女性のライフサイクルにおける健康課題とその支援①思春期 4. 女性のライフサイクルにおける健康課題とその支援②成熟期 5. 女性のライフサイクルにおける健康課題とその支援③成熟期 6. 女性のライフサイクルにおける健康課題とその支援④更年期・老年期 7. 特別な支援を要する女性の健康課題とその支援 暴力被害、人工妊娠中絶 8. ライフプランを考慮した健康・家族計画 9. 相談・教育の基礎と方法、保健指導計画の意義 10～14. 健康教育の企画(グループワーク) 15. 模擬健康教室の実施、評価								
事前・事後学習について	事前学習：指定されたテキストを読み、内容の把握に努めること。 事後学習：授業後に提示する事後課題に取り組み、授業内容を振り返ることで、知識の定着を図る。								
準備学習に必要な時間	各回の授業内容を確認し、1時間程度の予習を行うことを奨励する。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	80	健康教育の企画・運営・実施						
	レポート	0							
	その他	20	事後課題						
受講上の注意・課題のフィードバック	第 1～7 回については講義後に「知識の確認」問題を事後課題として提示し、解説を提示します。グループワークへの取り組み・内容に関する採点内容は個別に開示します。								
使用テキスト	我部山キヨ子 助産診断・技術学Ⅰ 第6版 医学書院 2021年								
参考書	鈴木由美 マタニティサイクルの実践保健指導(妊娠期) 丸善出版 2013年 鈴木由美 マタニティサイクルの実践保健指導(産褥期) 丸善出版 2013年								

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	地域母子保健 J 22011	前期	講義・演習	2	
担当教員	塩澤 綾乃				
授業の概要	基礎知識となる母子保健の現状と動向、関係法規を学ぶ。具体的な学びのために特別講師による事例を通して学び、実際の母子の関わりを見学の場面から、母子保健における社会的資源や保健・医療・福祉機関との調整について学ぶ。さらに母子保健推進のための健康教育を企画し、母子保健における助産師の役割について理解を深める。				
到達目標	地域における母子保健の基礎および母子保健の現状と動向について理解できる 母子保健にかかわる法律や制度について理解できる 母子保健を推進するための社会的資源と保健・医療・福祉機関との調整について理解できる				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	1-2. 地域母子保健の背景と基本的知識 3-4. 母子保健行政の実際 5-6. 飯田下伊那地域における母子保健の動向（特別講師） 7-8. 国際化時代における母子保健 9. 育児の実状とそれを取りまく環境（わいわいひろばの見学） 10. 地域母子保健における助産師の役割/ディスカッション 11-13. 母子保健における健康教育の企画 14. 母子保健における健康教育の企画発表/まとめ 15. 飯田下伊那地域における周産期地域連携システムの実際（特別講師 飯田市立病院周産期センター師長）				
事前・事後学習について	基本的な知識、関係法規に関しては予習・復習が必要となるため、教科書・授業資料を見直して受講する。 母子保健にかかわる出来事に日々関心を持ち、地域で必要とされる助産師の役割と支援方法について自分の考えをまとめておく。				
準備学習に必要な時間	講義予定に沿って、教科書などを1時間程度読み、授業内容を理解しやすくする。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	70	地域母子保健における助産師の役割		
	その他	30	グループワークの取り組みと内容		
受講上の注意・課題のフィードバック	ディスカッションに積極的に参加し、効果的に活用する。 ディスカッション時にアドバイスを行ったり、終了時にコメントを行って学びを深める。				
使用テキスト	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 2023 第6版 新版 助産師業務要覧 I 基礎編 日本看護協会出版会 第4版 2024年版				
参考書	母子保健の主なる統計 財団法人母子衛生研究会編 母子保健事業団 わが国の母子保健 財団法人母子衛生研究会編 母子保健事業団				

対象学生	助産学専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	助産管理	J 22012	前期	講義	2					
担当教員	西村 理恵									
授業の概要	助産管理の基本および助産業務管理を学び、助産師に関わる法律と責任を理解する。 あわせて周産期医療における連携・協働、助産所の管理・運営および医療安全・危機管理について学び、安全で質の高い助産実践を支える基盤を形成する。									
到達目標	1. 助産管理の基本および助産業務管理を理解できる 2. 助産師および助産業務に関わる法律と責任を理解できる 3. 周産期医療における連携・協働の重要性を理解できる 4. 助産所の管理・運営の基本を理解できる 5. 医療安全および危機管理の基本を理解し実践できる									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 助産管理の基本および助産業務管理 2. 助産師および助産業務に関わる法律と責任 3-4. 周産期医療における連携・協働 5. 助産所の管理・運営（関係法規に基づく運営） 6-7. 医療安全および危機管理（安全対策・災害対策） 8-11. 助産所開業モデルの作成および発表 12. 助産所における助産管理の実際（外部講師：開業助産師） 13. 病院における助産管理の実際（外部講師：地域周産期センター師長） 14-15. 医療安全に関するシミュレーション									
事前・事後学習について	事前学習：指定されたテキストを読み、内容の把握に努めること。 事後学習：授業後に提示する事後課題に取り組み、授業内容を振り返ることで、知識の定着を図る。									
準備学習に必要な時間	各回の授業内容を確認し、1時間程度の予習を行うことを奨励する。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	80	助産所開業モデルプレゼンテーション、医療安全シミュレーション							
	レポート	0								
	その他	20	事後課題							
受講上の注意・課題のフィードバック	受講上の注意点：講義内容は、講義の進行状況により、順番を変更することがある。 課題のフィードバック：定期試験採点後の内容については、希望に応じて個別に提示する。									
使用テキスト	我部山キヨ子：助産学講座 10 助産管理 第6版 医学書院 2022 福井トシ子：助産師業務要覧 第4版 I 基礎編 日本看護協会出版会 2026									
参考書	池ノ上 克他編集：助産業務ガイドライン 2024 日本助産師会出版 2025 日本助産師会 助産所開業マニュアル改訂特別委員会：助産所開業マニュアル 2021 日本助産師会出版 村上明美：事例から学ぶ産科医療補償制度と助産リスクマネジメント 医歯薬出版 2018									

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	助産学実習 A J 23013	前期	実習	3	
担当教員	西村 理恵・塩澤 綾乃・中山 美香				
授業の概要	<p>妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における助産実践を学ぶ。分娩見学および分娩介助を通して観察・判断・記録の基礎を修得する。助産過程の展開および報告・連絡・相談を実践し、振り返りを通して助産実践の基盤を形成する。</p> <p>本実習は実務家教員の授業で、看護師・助産師免許を有する教員が担当する科目である。</p> <p>看護、医療、助産学に関する実務家としての視点、臨床での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期・分娩期・産褥期の助産実践を理解できる</li> <li>2. 分娩経過を観察し記録できる</li> <li>3. 基本的な助産過程の展開ができる</li> <li>4. 自身の判断に基づき報告・相談および記録ができる</li> <li>5. 実践を振り返り課題を明確にできる</li> </ol>				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○	○		
授業計画	<p>〈外来実習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の助産師の観察・判断・ケア</li> <li>2. 出産準備教育および保健指導の見学</li> <li>3. 多職種連携および地域支援の理解</li> </ol> <p>〈病棟実習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩期の観察・判断・ケアの見学</li> <li>2. 分娩 1 例の介助（直接介助・間接介助を含む、可能な範囲）</li> <li>3. 分娩経過の記録および振り返り</li> <li>4. 産褥期のアセスメントと助産過程の展開</li> <li>5. 新生児の観察およびケアの実践</li> <li>6. 退院支援および地域連携の理解</li> </ol>				
事前・事後学習について	<p>事前学習：既習内容を復習し、観察項目を整理すること。</p> <p>事後学習：実習内容を振り返り記録を整理すること。助産過程の展開を再検討すること。</p>				
準備学習に必要な時間	各実習日前後に 1 時間以上の準備および振り返りを行うことを奨励する。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	40	観察・報告・判断の報告の実践および振り返り内容		
	レポート	60	助産過程の展開		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的かつ計画的に実習に臨むこと。</li> <li>2. 安全・倫理的配慮を最優先に行動すること。</li> <li>3. 助産師の指導の下で行動すること。</li> <li>4. 報告・連絡・相談を徹底すること。</li> <li>5. 実習後は速やかに振り返りをおこなうこと。</li> </ol>				
使用テキスト					
参考書	令和 8 年度 助産学実習 実習要項				

対象学生	助産学専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	助産学実習B	J 24014	後期	実習	8					
担当教員	西村 理恵・塩澤 綾乃・中山 美香									
授業の概要	<p>妊娠後期から産後 1 か月まで継続事例を受け持ち、助産診断および助産過程を展開する。正常分娩の介助を安全に実施し、産婦の主体性を尊重した支援を実践する。これらを通して助産師としての役割と責任を自覚し、実践力の基盤を形成する。</p> <p>本実習は実務家教員の授業で、看護師・助産師免許を有する教員が担当する科目である。看護、医療、助産学に関する実務家としての視点、臨床での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 継続事例に対し妊娠期から産後 1 か月まで助産過程を展開できる</li> <li>2. 正常分娩の介助を安全に実施し、産婦の主体性を尊重した支援ができる</li> <li>3. 産褥期・新生児期の助産過程を展開し支援できる</li> <li>4. 分娩準備教育を企画・実施・評価できる</li> <li>5. 助産師の役割と責任を自覚し主体的に行動できる</li> </ol>									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
	○	○	○							
授業計画	<p>〈継続事例実習〉  妊娠後期から産後 1 か月までの継続事例を受け持つ  妊娠期の助産診断および保健指導の実施  分娩期の助産診断および分娩介助  産褥期・新生児期の助産過程の展開  産後健診における適応状況の評価  〈分娩介助実習〉  直接介助（正常分娩のケアおよび介助を段階的に実施）  間接介助  新生児係  〈分娩準備教育〉  分娩準備教育の企画および指導案作成  施設で実施される分娩準備教育の一部を担当し実施内容を評価する  〈帝王切開症例〉  帝王切開症例における周手術期の看護および回復過程を理解する</p>									
事前・事後学習について	<p>事前学習：既習内容を復習し、観察項目を整理すること。担当事例の情報を事前に確認・把握すること。</p> <p>事後学習：実習内容を振り返り記録を整理すること。自身の判断および行動を分析すること。</p>									
準備学習に必要な時間	各実習日前後に 1 時間以上の準備および振り返りを行うことを奨励する。									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	40	観察・報告・判断の報告の実践および振り返り内容							
	レポート	60	助産過程の展開							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的かつ計画的に実習に臨むこと。</li> <li>2. 安全および倫理的配慮を最優先とすること。</li> <li>3. 分娩期ケア・分娩介助は助産師の指導のもとで行動すること。</li> <li>4. 実習中は報告・連絡・相談を徹底すること。</li> <li>5. 夜間および休日実習が含まれるため、体調管理に十分留意すること。</li> </ol>									
使用テキスト										
参考書	令和 8 年度 助産学実習 実習要項									

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	地域母子保健実習 J 24015	前後期	実習	1	
担当教員	西村 理恵・塩澤 綾乃				
授業の概要	地域周産期医療システムの構造と機能を実際に見学し、各施設の役割と連携の実際を学ぶ。総合周産期母子医療センター、地域周産期医療センター、診療所および助産所における助産師の実践を通して、地域母子保健における助産師の役割と責任を理解する。また、妊娠期から子育て期に至る切れ目ない支援のあり方を考察し、地域における助産師の役割を多面的に理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域周産期医療システムの構造と各施設の役割を説明できる</li> <li>2. 地域母子保健における助産師の役割と責任を理解できる</li> <li>3. 各施設の特徴と地域連携の実際を説明できる</li> <li>4. 妊娠期から子育て期に至る切れ目ない支援のあり方を考察できる</li> <li>5. 地域における助産師の役割を多面的に理解できる</li> </ol>				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
	○	○	○		
授業計画	総合周産期母子医療センターの見学および講義（長野県立こども病院総合周産期母子医療センター） 地域周産期センターにおける業務管理及び地域連携の実際（飯田市立病院） 地域の産科クリニックにおける母子・家族支援の実際（菜の花マタニティクリニック） 地域の開業助産院における助産管理および母子・家族支援の実際（はぎもと助産院）				
事前・事後学習について	事前学習：既習内容（地域母子保健・助産管理）を復習し、見学の視点を整理しておくこと。 事後学習：各施設における実習内容を振り返り、学びを記録として整理しておくこと。全施設の実習終了後、それぞれの施設の特徴および連携のあり方を統合し、地域母子保健における助産師の役割について総合的に整理すること。				
準備学習に必要な時間	各実習日前後に 1 時間以上の準備および振り返りを行うことを奨励する。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	20	見学態度・参加状況		
	レポート	80	各施設における学びおよび実習全体を通じた統合的考察		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	各施設での学びを相互に関連づけ、地域母子保健全体の視点から整理することを心がけること。				
使用テキスト					
参考書	令和 8 年度 助産学実習 実習要項				

対象学生	助産学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	助産学研究A J 23016			前期	講義・演習	1			
担当教員	西村 理恵・塩澤 綾乃								
授業の概要	助産学研究の意義および方法を学ぶ。文献検索および文献レビューを通して研究課題を明確化し、倫理的配慮を踏まえた研究計画を立案する。助産学に関連する主要理論を研究に応用し、研究計画書を作成・発表することで研究実践の基盤を形成する。								
到達目標	1. 助産学研究の意義および方法を理解できる 2. 倫理的配慮を踏まえた研究計画を立案できる 3. 文献検索および文献レビューを実施できる 4. 助産学における主要理論を研究に応用できる 5. 研究計画書を作成し発表できる								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○	○						
授業計画	1. 研究の基礎 2. 研究方法および倫理的配慮 3. 文献検索と文献レビュー 4. 助産学における主要理論と実践への応用① 5. 助産学における主要理論と実践への応用② 6. 理論の応用に関する発表 7. 文献検索および文献レビュー① 8. 文献検索および文献レビュー② 9. 文献検索および文献レビュー③ 10. 文献レビューの共有および研究テーマの検討 11. 研究計画書の構成 12. 研究計画書の作成① 13. 研究計画書の作成② 14. 研究計画書の作成③ 15. 研究計画書の発表および討議								
事前・事後学習について	事前学習：各回の授業内容を理解するため、指定された文献を読むこと。 事後学習：授業内容を振り返り、自身の研究テーマとの関連を整理すること。								
準備学習に必要な時間	各回の授業内容を確認し、1時間程度の事前・事後学習を奨励する。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	100	研究計画書の作成および発表により評価する						
	レポート	0							
	その他	0							
受講上の注意・課題のフィードバック	受講上の注意点：主体的かつ計画的に学修を進めること。 課題のフィードバック：研究計画書の作成過程においては、随時フィードバックを行う。必要に応じて個別相談を受け付ける。								
使用テキスト	我部山キヨ子 助産学講座 1 基礎助産学[1]助産学概論 医学書院								
参考書	授業内で提示する								

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	助産学研究B J 24017	後期	講義・演習	2	
担当教員	西村 理恵・塩澤 綾乃				
授業の概要	助産学研究 A で立案した研究計画に基づき、事例研究を実施する。分析的視点をもって観察および実践を行い、対象の言動や反応をデータとして整理・分析する。研究成果を助産実践への示唆としてまとめ、論文作成および発表を通して実践に還元する基盤を形成する。				
到達目標	1. 研究計画に基づき事例研究を実施できる 2. 実習場面のデータを適切に収集・整理できる 3. 研究結果を分析し、助産実践への示唆を導き出せる 4. 研究成果を論文としてまとめることができる 5. 研究内容を口述発表し、議論できる				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○	○		
授業計画	助産学実習 B と並行して事例研究を進める。進捗状況に応じて以下を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の目的および進め方の確認</li> <li>・情報収集および整理</li> <li>・研究計画書の修正</li> <li>・データの整理および分析</li> <li>・結果のまとめおよび考察</li> <li>・論文執筆および推敲</li> <li>・発表資料の作成</li> <li>・研究発表および討議</li> </ul>				
事前・事後学習について	事前学習：助産学研究 A で作成した研究計画書を確認し、研究課題を焦点化すること。 事後学習：実習場면을振り返り、事例に関するデータの整理および記録を継続すること。				
準備学習に必要な時間	教員との面談前後に 1 時間以上の準備および整理を行うことを奨励する。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	30	口述発表		
	レポート	50	研究論文		
	その他	20	取組み状況		
受講上の注意・課題のフィードバック	受講上の注意点：実習と並行して進行するため、主体的かつ計画的に取り組むこと。面談前には課題および疑問点を整理し、具体的な相談ができるよう準備すること。 課題のフィードバック：教員との個別面談を通して進捗を確認し、随時フィードバックを行う。				
使用テキスト	助産学研究 A 配布資料、助産学研究論文執筆要項				
参考書					

対象学生	助産学専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	周産期栄養学	J 23018	前期	講義・演習	1					
担当教員	新海 シズ									
授業の概要	妊婦・授乳婦及び乳児の栄養の特徴を理解する。妊産婦の食事摂取基準、「妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針」を理解し、母子ともに健全な食生活の支援のための活用ができるようにする。母乳哺育の意義、授乳の支援、離乳について理解し、母乳哺育や育児、離乳の適切な指導と支援ができるようにする。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦、授乳婦および乳児の栄養の特徴を理解する。</li> <li>・妊婦の食事の分量を把握できる。</li> <li>・離乳食の進め方が分かり、調理できる。</li> </ul>									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素のはたらきと食事摂取基準</li> <li>2. つわり・便秘・貧血のときの食事</li> <li>3. 妊娠高血圧症候群・肥満のときの食事</li> <li>4. 糖尿病・食欲不振のときの食事</li> <li>5. 乳汁栄養</li> <li>6. 離乳期の栄養</li> <li>7. 授乳期の栄養</li> <li>8. 授乳期の食事</li> </ol>									
事前・事後学習について	<p>事前学習：どのような食生活を送ることがのぞましいか、厚生労働省のホームページなどから助産師として食事に関する正しい情報を取得してください。講義内容はテキストで予習してください。</p> <p>事後学習：対象者にわかりやすく、説得力を持ってアドバイスするには、自分が実践してみることが大切です。学んだ知識を日々の食生活で実践してください。</p>									
準備学習に必要な時間	予習・復習に各 1 時間程度。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	70	各自の食事評価における知識・理解・思考力							
	その他	30	授業の取り組み状況							
受講上の注意・課題のフィードバック	自分の食事を振り返りながら妊婦・授乳婦・離乳食の食事を考えていきます。									
使用テキスト	基礎助産学 [3] 「母子の健康科学 第 6 版」 我部山キヨ子編集 医学書院									
参考書	日本人の食事摂取基準[2025 年版]，第一出版									

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	助産援助論 J 23019	通年	講義・演習	1	
担当教員	西村 理恵・塩澤 綾乃・中山 美香				
授業の概要	分娩期における助産技術を演習を通して学ぶ。 清潔操作および分娩野の作成、正常分娩介助法を修得し、母子を適切に支援する力を養う。 あわせて正常からの逸脱を判断し適切に対応する方法を学び、安全な分娩介助を実践する基盤を形成する。				
到達目標	1. 分娩期における助産技術の原理を理解できる 2. 清潔操作および分娩野作成を適切に実践できる 3. 正常分娩介助の基本技術を実践できる 4. 正常経過からの逸脱を判断できる 5. 正常経過からの逸脱に対し適切に対応できる 6. 分娩介助におけるチーム連携の重要性を理解できる				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3		
		○			
授業計画	1-2. 分娩室の準備および清潔操作への準備 3-5. 分娩野の作成および児娩出までの介助技術 6-10. 正常分娩介助法（仰臥位分娩）および関連技術 11-13. 正常分娩介助法（フリースタイル）および関連技術 14-15. 正常経過からの逸脱状況への対応				
事前・事後学習について	事前学習：配布する分娩介助技術手順書および手順動画を確認し、手順・技術・使用物品の理解に努めること。 事後学習：各回の演習内容を振り返り、提示された課題および自己練習を通して技術の定着を図ること。 課題内容は技術習得状況に応じて提示する。				
準備学習に必要な時間	各回の授業内容を確認し、1 時間程度の事前学習を奨励する。 さらに、技術の習得に向け、各回終了後に 2 時間程度の自己練習を推奨する。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	100	実技試験		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	受講上の注意：基礎看護技術（清潔操作、滅菌ガウン・手袋装着、導尿、点眼、点滴管理下での清拭等）の習熟に努めること。 課題へのフィードバック：演習中に随時フィードバックを行う。				
使用テキスト	我部山キヨ子編：助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院				
参考書	北川真理子編：今日の助産 南江堂 2018 年 佐々木くみ子編：分娩期の診断とケア 日本看護協会出版 2026 年 石川紀子編：THE 分娩 ビジュアルで学ぶ生理学・助産診断・分娩介助のすべて メディカ出版 2021 年 他				

対象学生	助産学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無			
科目名	小児発達論 J 22020			前期	講義	1				
担当教員	塩澤 綾乃・伊藤 かおり									
授業の概要	乳幼児の成長発達について理解する。									
到達目標	乳幼児の成長発達の正常と異常について理解する。 乳幼児の成長発達とその評価について理解し、異常の早期発見とその対処方法を学ぶ。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3							
		○								
授業計画	1. 乳幼児の成長発達の特徴 2. 乳幼児健診に必要な知識・技能 3-4. 乳幼児の成長発達の評価 5. 乳幼児の成長発達に影響を及ぼす疾患① 6. 乳幼児の成長発達に影響を及ぼす疾患② 7. 乳幼児健診における異常の早期発見 8. 乳幼児健診における異常への対処方法									
事前・事後学習について	教科書をよく読んでおいてください。									
準備学習に必要な時間	授業計画を見て1時間程度事前に予習し、終了後は復習してください。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	0								
	レポート	100	正しい理解と論理的な記述							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	わからないことに関して質問に応じます。									
使用テキスト	写真でみる乳児健診の神経学的チェック法 改定9版 南山堂									
参考書										

対象学生	助産学専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	仏教的ターミナルケア論 J 11021	集中講義	講義	1	
担当教員	鳥居 優美子				
授業の概要	看護は人の生老病死に向き合う仕事である。 死と向き合う患者のスピリチュアルな苦悩に寄り添うということについて仏教的な観点からケアの在り方を学ぶ。				
到達目標	仏教ホスピスであるビハーラについて理解でき、ケアの在り方がわかる。				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3		
	○				
授業計画	<p>【1～3回】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ビハーラ・ケアを学ぶにあたって <ol style="list-style-type: none"> <li>ホスピスって何？ <ul style="list-style-type: none"> <li>日本におけるホスピス・緩和ケアの導入</li> <li>ホスピスの理念</li> </ul> </li> <li>スピリチュアルケアとは？ <ul style="list-style-type: none"> <li>ターミナルケアとは？</li> <li>WHO 健康の定義、スピリチュアルの定義</li> <li>4つのケア（全人的ケア）</li> <li>スピリチュアルケアとは</li> <li>ナイチンゲールはスピリチュアルケアを含めた全人的ケアの先駆者</li> <li>ケアとは</li> <li>いのちについて考えてみよう</li> </ul> </li> <li>なぜ、ビハーラを学ぶのか <ul style="list-style-type: none"> <li>日本人の生死観</li> <li>日本的なケア</li> <li>生死観の確立</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>【4～6回】 <ol style="list-style-type: none"> <li>ビハーラとは <ul style="list-style-type: none"> <li>「宗教的ケア」と「スピリチュアルケア」</li> <li>宗教的ケアによる心の安寧</li> </ul> </li> <li>仏教をベースにしたスピリチュアルケア <ol style="list-style-type: none"> <li>ビハーラケアの理解を深めよう <ul style="list-style-type: none"> <li>仏教とは</li> <li>ビハーラの歴史と役割</li> <li>仏陀の教え</li> </ul> </li> <li>仏教看護「病い観」</li> </ol> </li> <li>【7～9回】 <ol style="list-style-type: none"> <li>臨床経験より見るスピリチュアルペインとスピリチュアルケア <ol style="list-style-type: none"> <li>事例</li> <li>グリーフケア</li> <li>寄り添う</li> </ol> </li> <li>【10～12回】 <ol style="list-style-type: none"> <li>寄り添う</li> <li>チーム医療とビハーラ・ケア</li> <li>【13～15回】 <ol style="list-style-type: none"> <li>臨床瞑想法・まとめ</li> <li>総括・評価</li> </ol> </li> </ol> </li></ol></li></ol></li></ol>				
事前・事後学習について	テキスト：第1章 p2～18、第4章 p58～77、第5章 D スピリチュアルケア p130～149、第8章 D グリーフと遺族ケア p249～254 を事前に読んで授業に臨んでください。				
準備学習に必要な時間	事前にテキストを読む時間として約1時間。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	40	筆記試験		
	実践	0			
	レポート	40			
	その他	20	グループワーク参加度、ワークシート		
受講上の注意・課題のフィードバック	ワークシートを通じて内容のやり取りをします。				
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 2025 第3版				
参考書	『仏教とビハーラ運動』田代俊孝著(法蔵館)、『ビハーラ往生のすすめ』田代俊孝著(法蔵館)、『スピリチュアルケア学序説』窪寺俊之著(三輪書店)、『スピリチュアルケアを語るーホスピス、ビハーラの臨床からー』谷山洋三、伊藤高章、窪寺俊之著(関西学院大学出版会)、『癒し癒されるスピリチュアルケア 医療・福祉・教育に活かす仏教の心』大下大圓著(医学書院)『ターミナルケアとホスピス』柏木哲夫著(大阪大学出版会)『実践的スピリチュアルケア ナースの生き方を変える“自利利他”のこころ』大下大圓著(日本看護協会出版会)				

対象学生	助産学専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	情報処理	J 11022	前期	講義・演習	1				
担当教員	篠田 恵								
授業の概要	研究や論文作成に必要な情報リテラシーについて学習する。 特に助産研究では、統計データの処理方法に重点を置いて学習する。								
到達目標	修学・研究に必要なスキル及び、就職後、実務に必要なスキルを習得する。								
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3						
		○							
授業計画	1. Windows 基礎とパソコンの基本、Word の画面構成、タッチタイピング、Teams のクラス登録について 2. 文字入力の方法と文章入力、Word の基本機能、ファイル管理、Teams を活用したアンケート、課題提出、データダウンロードについて 3. 様々な文書の作成と編集、表・図の利用 4. Excel の画面構成、データの入力方法と基本的な操作、データベース機能 5. 新しい変数の作成（四則演算）、簡単な関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN 他） 6. 数値データの解析（目的別グラフの作成） 7. カテゴリーデータの集計 8. Word と Excel の連携、試験（Word, Excel）								
事前・事後学習について	タッチタイピングを自分のものにできるよう、毎日少しの時間を取り分けて練習しましょう。復習として毎回課題（必須）を出しますので、早めに取り組み、学んだことを自分のものとしてしっかり身につけましょう。課題提出は Teams を基本とします。								
準備学習に必要な時間	タイピング練習（毎日 15 分） 授業内で配布する課題（宿題）への取り組み（毎回 20 分～1 時間 30 分程度）								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	80	オフィスソフトを利用したデータ分析・文書作成の実技試験						
	実践	15	毎回の提出課題到達度						
	レポート	0							
	その他	5	授業に取り組む姿勢						
受講上の注意・課題のフィードバック	コンピュータは病院・学校・施設・事業所などあらゆる場面で使用されており、そのスキルは最低限身につけおきたいものです。必要最低限の技術と知識を身につけておきましょう。 授業で新しく習得した知識・技能は、毎回宿題として出される課題を通してしっかり復習しましょう（課題提出は必須）。 提示される課題には積極的に取り組み、今後の活動に役立つものとなることを期待します。								
使用テキスト	実践コンピューターリテラシー入門 改訂版 （実教出版 2023 年 11 月 20 日発行 執筆：宮脇典彦、小沢和浩、安藤富貴子、新村隆英） Teams による遠隔授業の受け方（学校から配布される資料）								
参考書									